

# マンスリー・トピックス

NO. 047

平成 27 年 12 月 4 日

## 中国の輸入動向と各国が受ける影響について

参事官（経済財政分析—海外担当）付参事官補佐 田中 智也 ※

参事官（経済財政分析—海外担当）付 中村 隆臣 ※

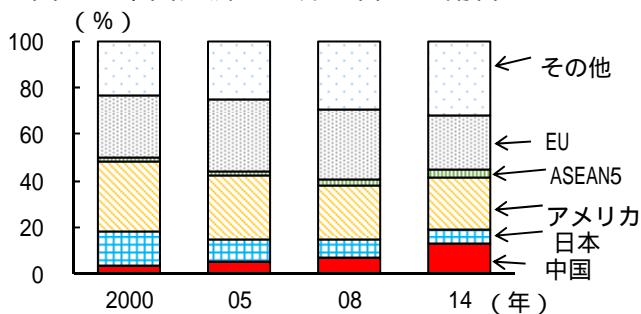
阿部 龍斗 ※

### 1. はじめに

中国は世界金融危機後の世界経済の回復をけん引してきた。最近 10 年間( 2005 ~ 2014 年 ) をみると、実質 GDP 成長率は年平均 9.8% に達し、世界の GDP に占める中国のシェアは 4.8% ( 05 年 ) から 13.4% ( 14 年 ) まで上昇した ( 図 1 )。

高成長を続けてきた中国経済であるが、その勢いは次第に緩やかなものになってきている。実質 GDP 成長率は 11 年第 2 四半期 ( 前年同期比 10.0% ) を最後に 2 桁成長から 1 桁成長に鈍化し、その後も次第に低下している。個別指標でも生産、投資、貨物輸送などの伸びの低下が顕著になっている。15 年に入ってから、15 年 1 ~ 3 月期、4 ~ 6 月期はいずれも政府目標に沿った前年同期比 7% の成長を達成したものの、7 ~ 9 月期は同 6.9% に減速したほか、投資や生産といった個別の経済指標も伸び率が低下を続けるなど、中国経済は緩やかに減速している ( 図 2 )。

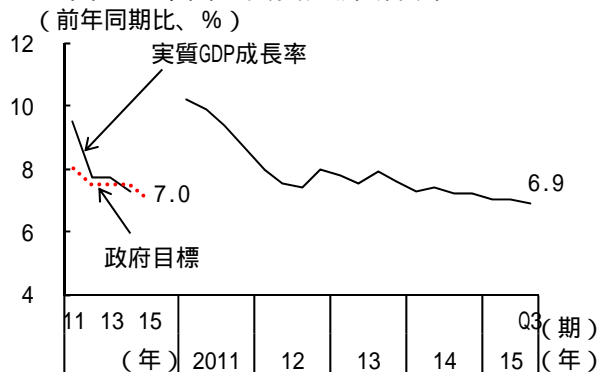
図 1 中国経済の世界に占める割合



(備考) 1. IMFより作成。

2. ASEAN5はインドネシア、タイ、マレーシア、フィリピン、ベトナム。

図 2 中国の実質経済成長率



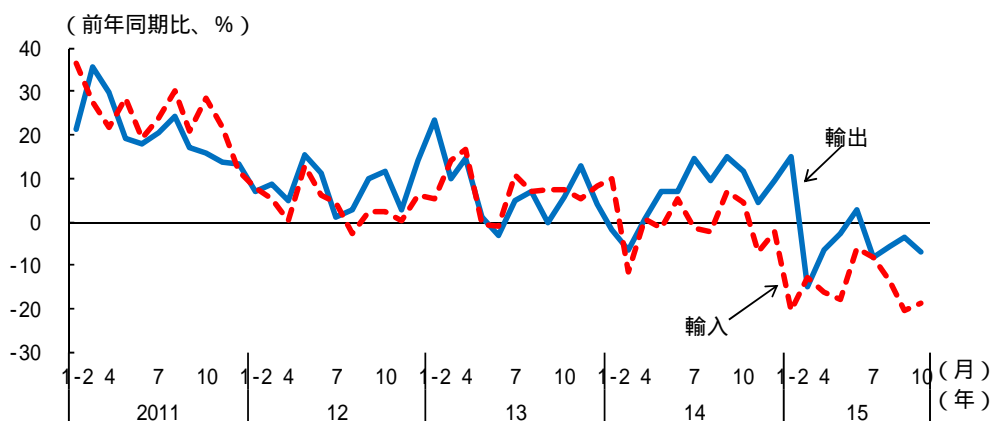
(備考) 中国国家統計局より作成。

\* 本レポートの内容や意見は執筆者個人のものであり、必ずしも内閣府の見解を示すものではない。

貿易に関しても、14年後半以降、輸出入ともに多くの月で前年比マイナスの伸びを記録するようになってきている（図3）。中国の世界経済に占めるシェアが上昇するとともに、世界の貿易に占める中国のシェアも大幅に上昇していることから、中国と地理的に近接するアジア各国・地域はもちろんのこと、これまで中国经济とのつながりが強く意識されることのない欧米諸国、さらには南米や大洋州といった地域においても、最近の中国经济の減速と輸出入を通じた影響には強い関心が持たれている。

中国经济減速の影響と一口に言っても、経済発展とともに中国经济の構造変化が進んでおり<sup>1</sup>、輸出入の品目も年々変化していることから、各国経済に与える影響は様々であると考えられる。本稿では、最近10年間の中国の輸入減少局面に着目することにより、中国の輸入減少が先進国、資源国<sup>2</sup>、アジア諸国に与える影響について分析する。

図3 中国の輸出入



（備考）中国海関総署により作成。

<sup>1</sup> 経済発展とともに、経済のサービス化が進んでいると考えられる。例えば、第三次産業の就業者シェアは、最近10年間では毎年上昇しており、31.4%（05年）から40.6%（14年）に高まっている。

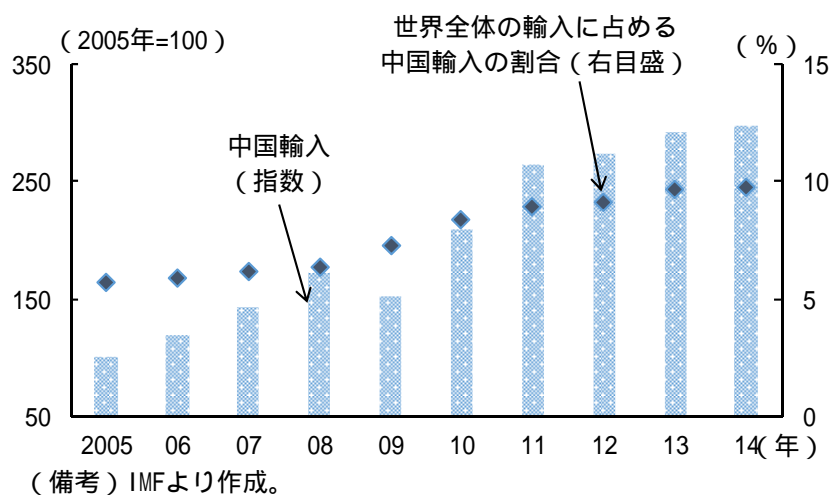
<sup>2</sup> ここでは輸出の20%以上を鉱物性製品が占める国とした。

## 2 . 中国の輸入動向

(最近 10 年間の中国の輸入動向)

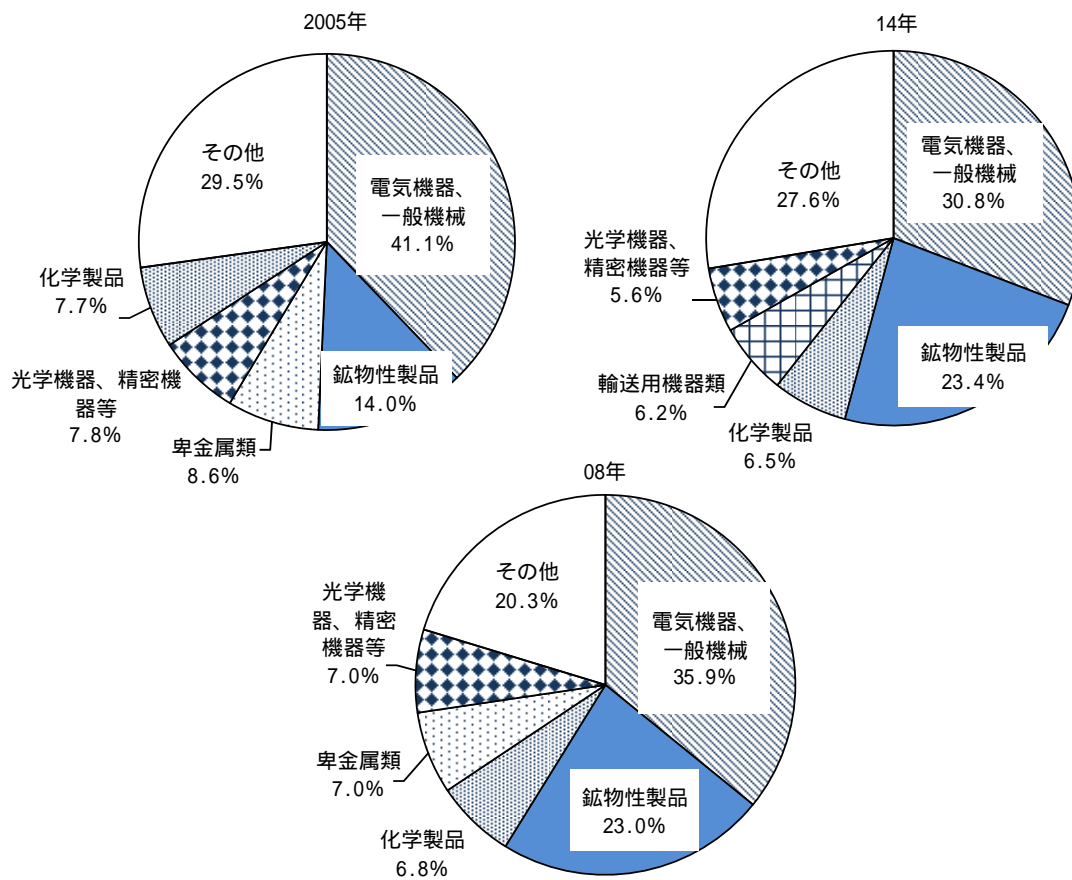
中国の輸入額は、05 年の約 6,600 億ドルから 14 年には 1 兆 9,600 億ドルと、10 年間で約 3 倍に増加した。その間、中国の輸入が世界全体の輸入額に占めるシェアも約 5 % (05 年) から約 10% (14 年) に上昇しており、中国の輸入は、世界全体の輸入の約 2 倍のスピードで増加した (図 4)。

図 4 中国の輸入額と世界に占める割合



次に、05年から14年までの10年間の中国の輸入に占める品目別のシェアの推移<sup>3</sup>をみると、「電気機器、一般機械」が一貫して最大のシェアを占めているものの、シェアは低下傾向にある。一方、シェア第2位の「鉱物性製品」をみると、輸入額は約920億ドル（05年）から約4,590億ドル（14年）と10年間で約5倍に増加し、シェアも約14%（05年）から約23%（14年）に上昇している（図5）。なお、他の品目の多くも05年から14年にかけて絶対額で見れば増加している。

図5 中国の輸入品目別シェア

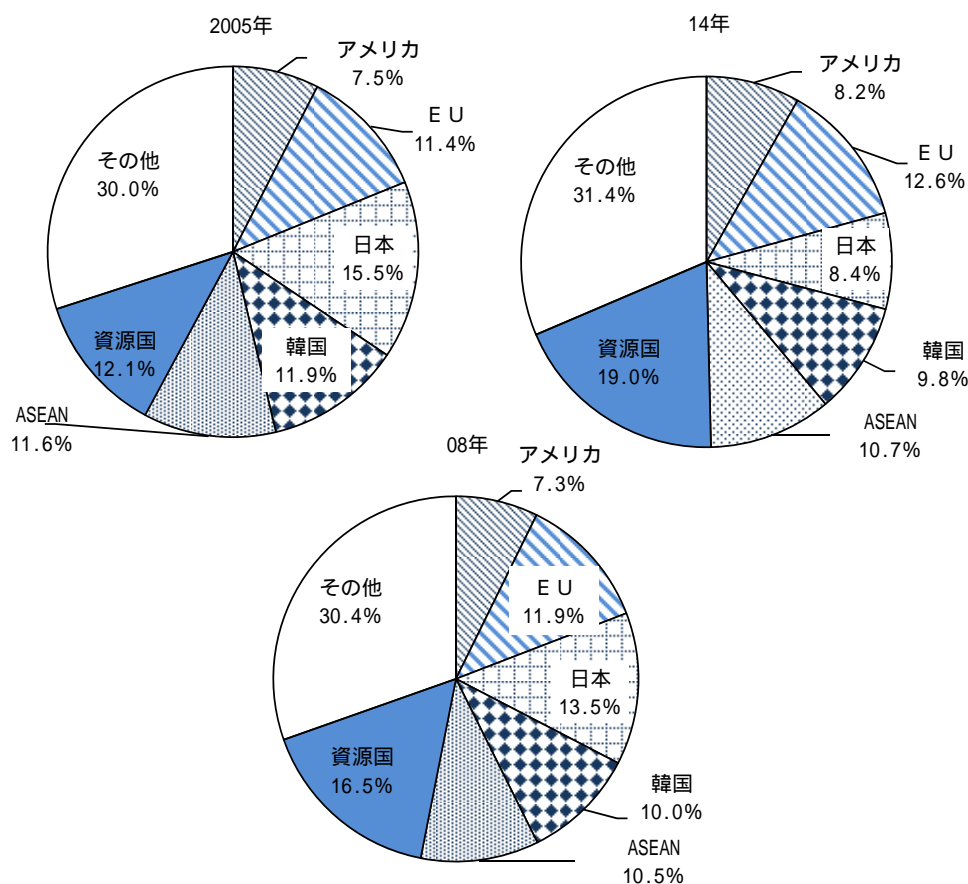


（備考）中国海関総署より作成。

<sup>3</sup> HSコード分類の上2桁の「部」による分類。全21部。

また、中国の輸入に占める国別のシェアをみると、資源国が05年の12.1%から14年には19.0%と上昇している一方で、アジア諸国（日本、韓国、ASEAN）は、05年の39.0%から14年には28.9%に低下している（図6）。中国は最近10年間で、主にアジア諸国から資源国へと輸入構造をシフトさせてきたことを反映している。

図6 中国の輸入先国別シェア



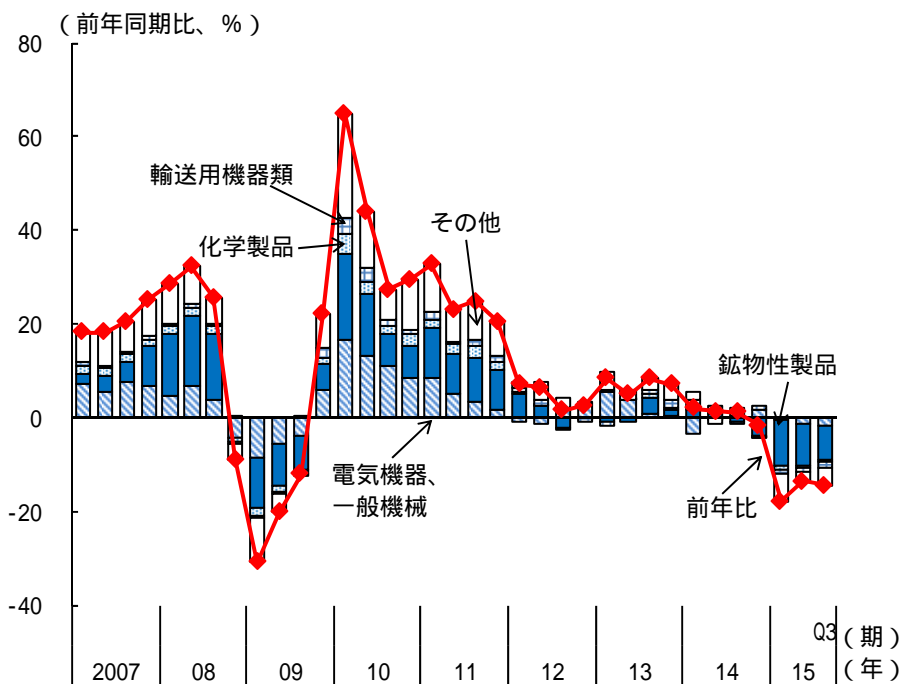
- （備考） 1. 中国海関総署より作成。香港、マカオは除く。  
 2. 14年の中国輸入相手先上位20か国かつ14年の当該国の全輸出額に占める鉱物性製品の割合が20%を超える国を資源国とした。  
 具体的には、アンゴラ、オーストラリア、ブラジル、カナダ、イラン、ロシア、サウジアラビア、南アフリカの8か国。  
 インドネシアも同条件を満たしているが、ASEANに含まれているため上記には含めていない。

(中国の輸入減少局面の特徴)

この10年間に於いて、中国の輸入には2度の減少局面があった。1度目(以下、前回の局面)は世界金融危機時であり、08年第4四半期から09年第3四半期にかけて4四半期連続で輸入額が減少した。その後、中国政府がいわゆる4兆元(GDP比約13%)の超大型の景気刺激策を行ったことから、輸入額は09年第4四半期以降急回復した。2度目(以下、今回の局面)は14年第4四半期から始まっており、15年11月時点で4四半期連続で輸入額の減少が続いている。

中国の輸入額の減少を輸入品目<sup>4</sup>からみると、前回の局面では鉱物性製品に加え、電気機器、一般機械も大きく減少したが、今回の局面では鉱物性製品が減少の大部分を占めているという特徴がある(図7)。

図7 中国の輸入額推移



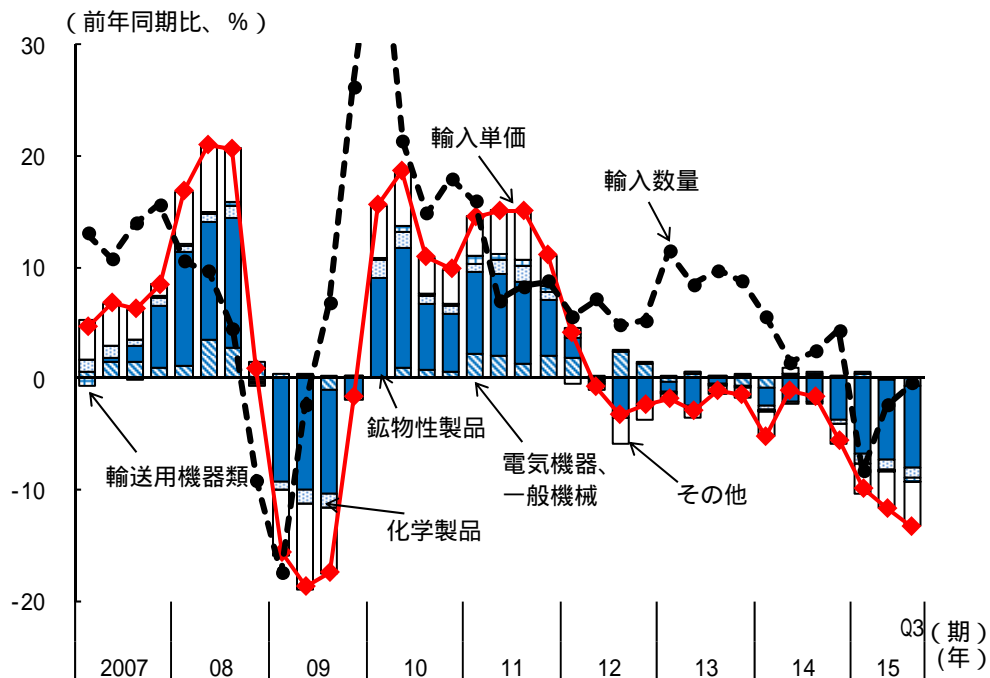
(備考) 1. 中国海関総署より作成。  
2. 輸入額は通関ベース(ドル建て)。

<sup>4</sup> HSコード分類の上2桁の「部」による分類。全21部。

次に、中国の輸入の動向を輸入数量と輸入単価に分けて分析する。前回の局面では、輸入数量が08年第4四半期に急減した後に、輸入単価がそれを追って下落している。一方、今回の局面では逆の動きをしており、12年第2四半期以降輸入単価が緩やかに下落する中で、15年第1四半期に約6年ぶりに輸入数量が下落している（図8）。

さらに、輸入単価について品目<sup>5</sup>ごとの寄与度をみると、いずれの減少局面においても鉱物性製品が大きく低下に寄与している。鉱物性製品の輸入単価について、前回と今回をさらに詳しく比較すると、前回の局面は低下が4四半期にとどまり短期間で終わったものの、今回の局面は既に14四半期<sup>6</sup>にわたり低下が続いている。

図8 中国の輸入数量と輸入単価



(備考) 1. 中国海関総署より作成。

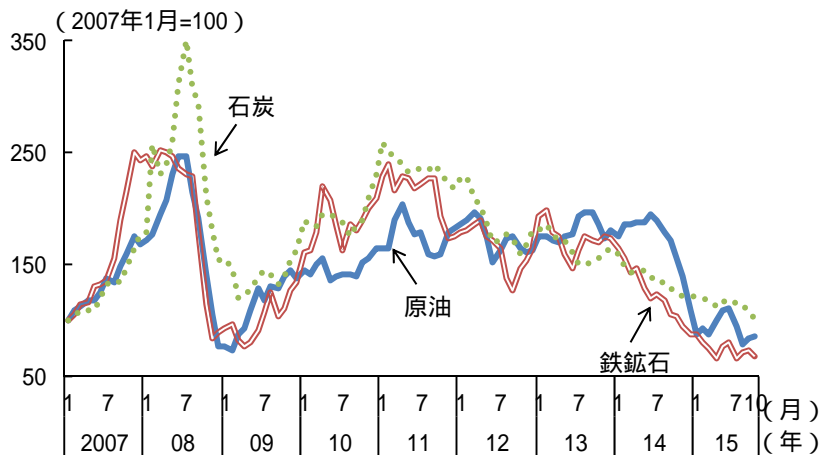
2. 寄与度分解にあたっての品目別シェアは各年の金額ベース(ドル建て)でのシェアを使用。

<sup>5</sup> HSコード分類の上2桁の「部」による分類。全21部。

<sup>6</sup> 12年第2四半期から15年第3四半期

輸入単価の低下の大部分が鉱物性製品の価格下落によってもたらされていることから、代表的な鉱物性製品のうち中国の輸入が多い品目(原油、鉄鉱石、石炭)<sup>7</sup>の価格動向をみると、08年後半には、いずれの品目も価格が大きく下落している。また、鉄鉱石と石炭の価格は11年初頭をピークに同年後半から下落傾向にある。原油価格は14年後半から大きく下落している(図9)。その他の鉱物性製品の価格(ニッケル、アルミ、銅)についても同様に11年初頭をピークに下落傾向にある。

図9 資源価格の推移(ドルベース)



(備考)1. 世界銀行より作成。

2. 原油はWTI。鉄鋼石はオーストラリア産(鉄分62%)の中国向け輸出価格。石炭はオーストラリア価格。

<sup>7</sup> ITCによると、中国の鉱物性製品の輸入額は4億5千万ドル(14年)。シェアは原油(50%)、鉄鉱石(20%)、石炭(2%)。



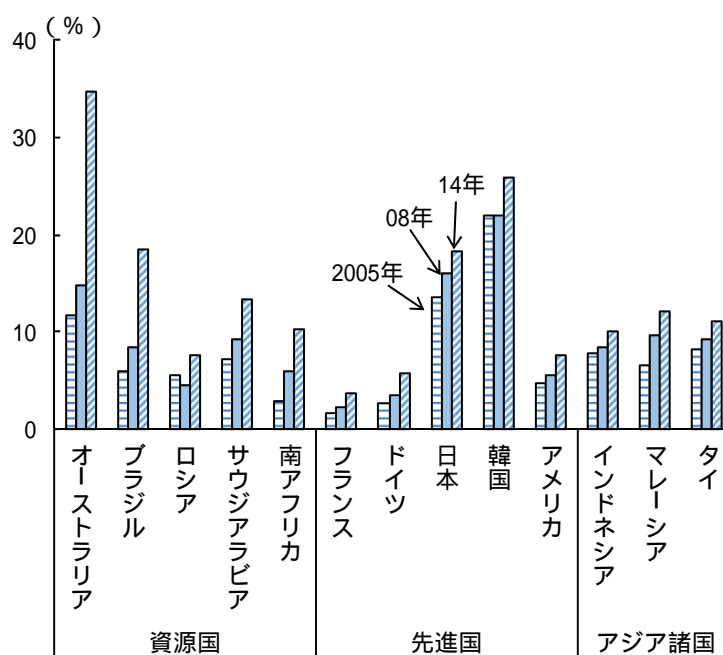
### 3. 各国への影響

中国経済の減速は、中国への輸出シェアが高まっている国に対して、中国向け輸出の減少を通じて経済にマイナスの影響を及ぼしていると考えられる。以下では、中国向け輸出の上位国の輸出動向について、前回と今回の中国輸入減少局面における各国の中国向け輸出品目の変化に着目しながら分析を行う。

(中国依存度の高まり)

中国が経済成長とともに輸入を増加させる中、多くの国では中国向け輸出が増加した。中国の輸入上位国<sup>8</sup>を資源国グループ、先進国グループ、アジア諸国グループに分けてみると、各国ともに輸出総額に占める中国向け輸出の割合が05年から14年にかけて上昇しており、輸出における中国依存度が高まっている。中国依存度の変化を比較すると、先進国グループやアジア諸国グループに比べて、資源国グループの中国依存度が高まっている(図10)。

図10 各国輸出における中国依存度

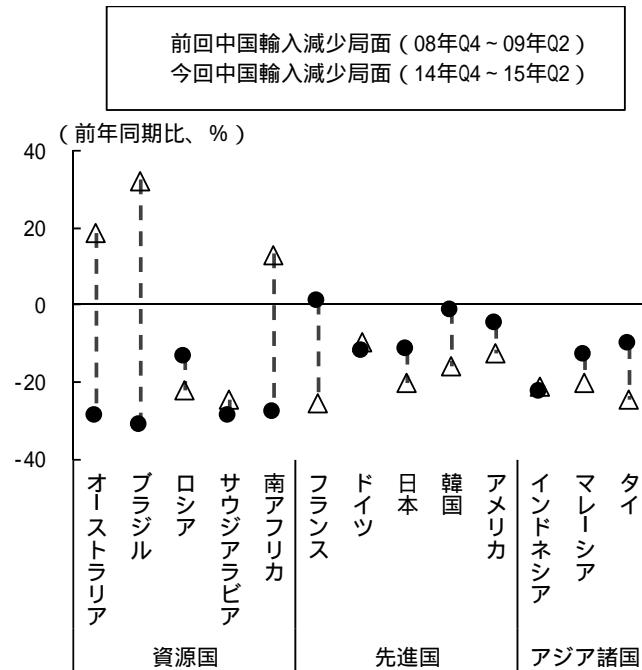


(備考) 1. IMFより作成。  
2. 中国依存度は、各国の輸出総額に占める中国向け輸出額のシェア。

<sup>8</sup> 香港、マカオを除く。

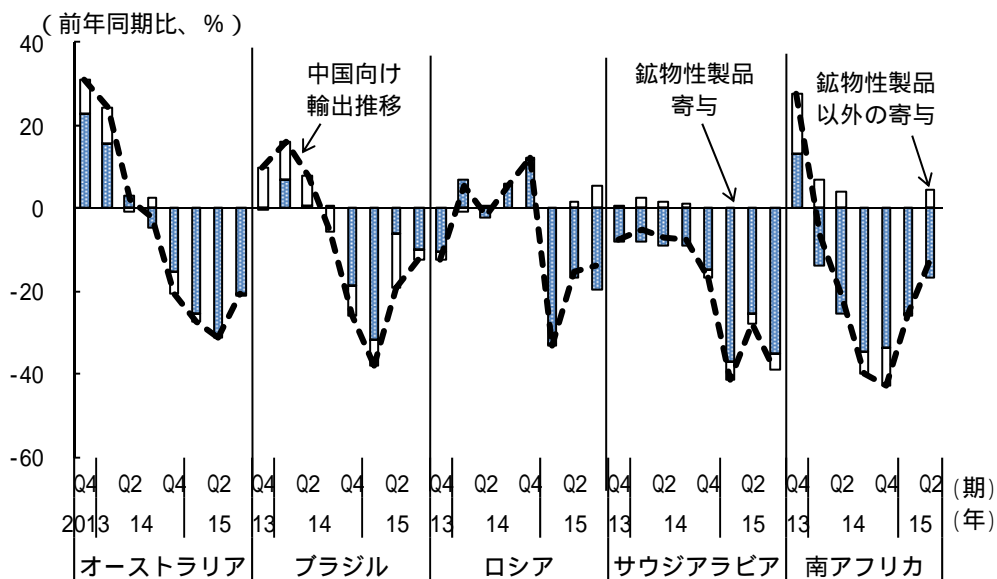
中国の2度の輸入減少局面における各国の輸出額の減少度を比較すると、今回は先進国、アジア諸国の輸出が減少した一方で、資源国では輸出が増加した国もあった。今回は、先進国、アジア諸国と比較して、資源国が大きく下落している（図11）。また、今回の資源国における中国向け輸出の変化について、その内訳をみると、減少のほとんど全てが鉱物性製品の寄与となっている（図12）。

図11 各国の中国向け輸出額（ドルベース）の減少度



(備考) 1. ITCより作成。  
2. ロシア及びサウジアラビアについては中国海関総署より作成。

図12 対中輸出に占める鉱物性製品寄与度

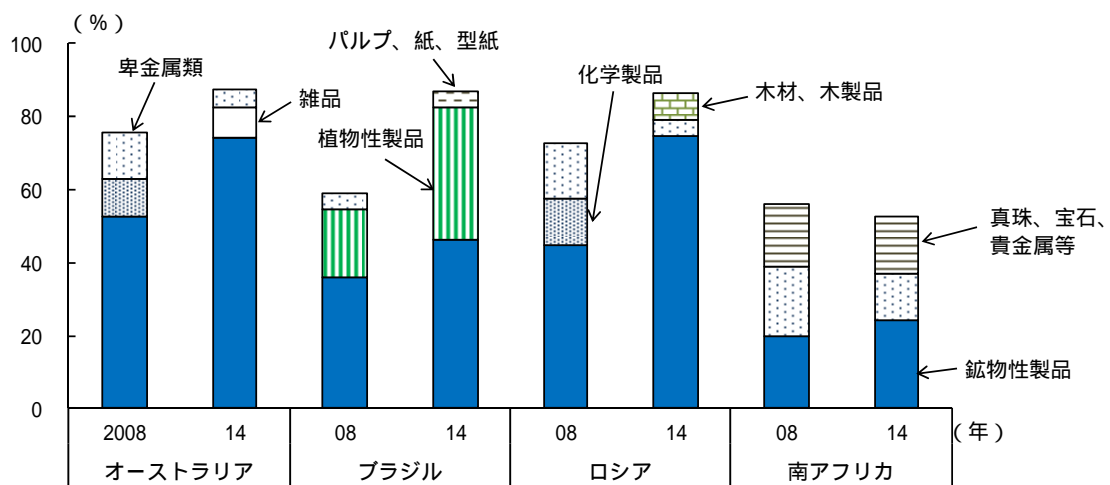


(備考) 1. オーストラリア、ブラジル、ロシア、サウジアラビアは中国海関総署より作成。  
2. 南アフリカはITCより作成、データ制約により15年第2四半期まで。

(輸出品目の変化とその影響)

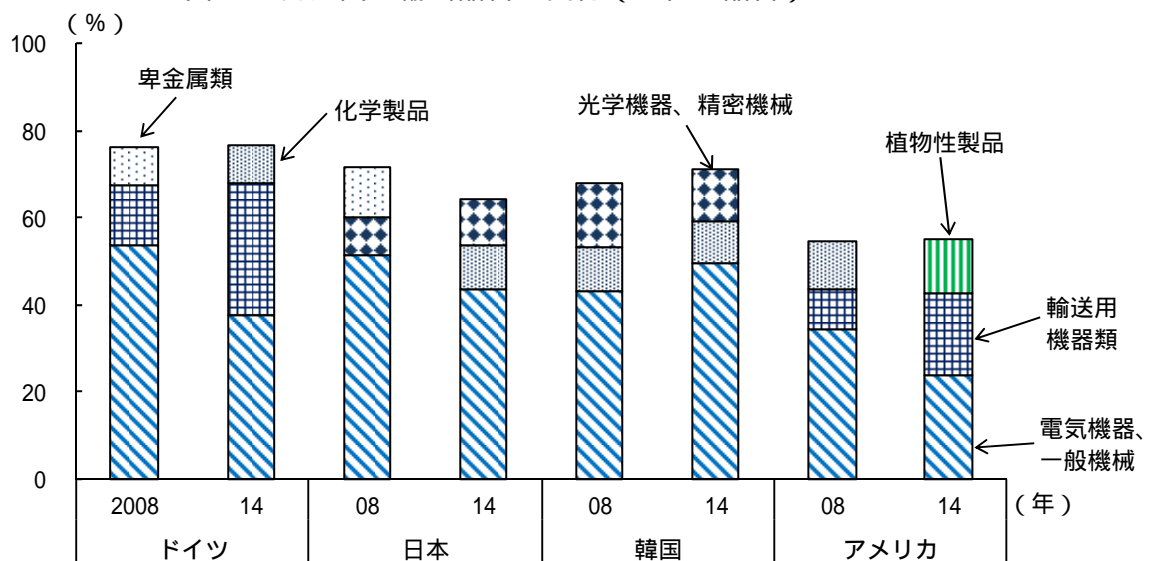
ここで、08年から14年にかけての資源国、先進国、アジア諸国の各グループの中国向け輸出品目の変化をみてみよう。最初に中国向け輸出の上位3品目<sup>9</sup>が中国の輸入全体に占めるシェアをみると、先進国、アジア諸国と比較して、資源国は上昇している。次に、第1位のシェアを占める品目をみると、いずれの国においても品目自体の変化はない。ただし、先進国グループ及びアジア諸国グループでは、韓国及びインドネシアを除いて「電気機器・一般機械」が第1位を占めているものの、シェアは低下している。一方、資源国グループでは「鉱物性製品」が第1位を占めており、シェアも全ての国で上昇している(図13、14、15)。

図13 資源国の輸出品目の変化(上位3品目)



(備考) 1. 中国海関総署より作成。  
2. 南アフリカのみITCより作成。

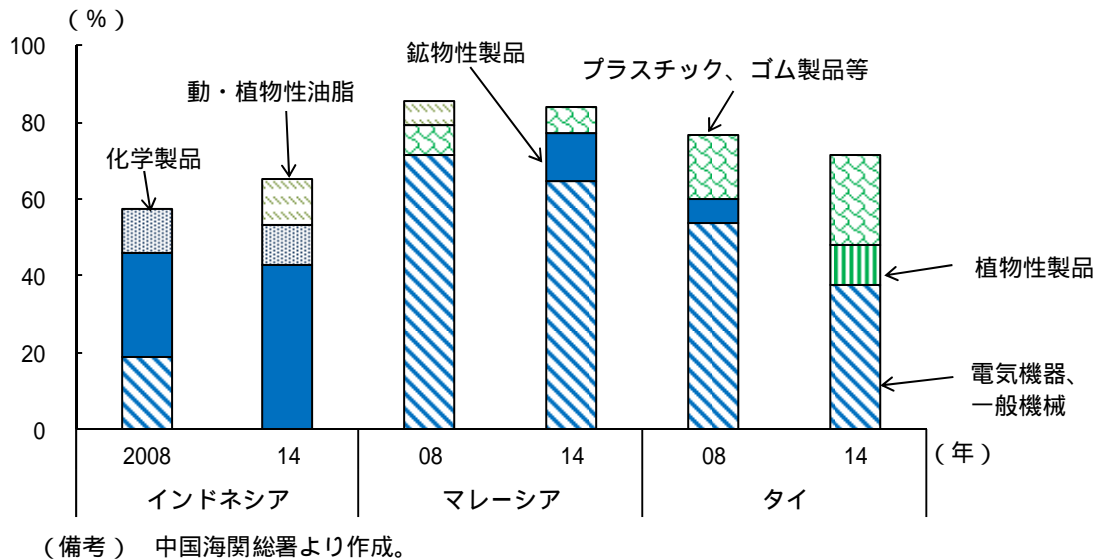
図14 先進国の輸出品目の変化(上位3品目)



(備考) 中国海関総署より作成。

<sup>9</sup> HSコード分類の上2桁の「部」による分類(全21部)。

図 15 アジア諸国の輸出品目の変化（上位 3 品目）



次に、輸出品目の多様度<sup>10</sup>と、中国輸入減少局面における各国の中国向け輸出減少度の関係について、資源国グループと先進国グループに分けて分析を行った。分析に当たっては、ハーシュマン・ハーフィンダール指数（以下、HHI 指数）<sup>11</sup>を用いて、各国の中国向け輸出品目の多様度を定量化した。

各国の HHI 指数と中国向け輸出額の減少度について、前回と今回の中国輸入減少局面を比較したところ、資源国グループは、前回（08 年）と比較して HHI 指数が上昇（中国向け輸出が特定品目により特化）しており、輸出額の減少が前回よりも大きくなっている。一方、先進国では前回と比較して HHI 指数が低下（中国向け輸出の品目がより多様化）しており、輸出額の落ち込みが前回と比べ小さくなっている（図 16）。

資源国の HHI 指数が上昇した背景には、中国の鉱物性製品への需要の高まりもあり、資源国では鉱物性製品を中心とする特定品目の輸出が増加してきたことが挙げられる。例えば、ロシアの中国向け輸出額に占める品目別のシェアは、鉱物性燃料が 52%（08 年）から 74%（14 年）へと大幅に上昇している。

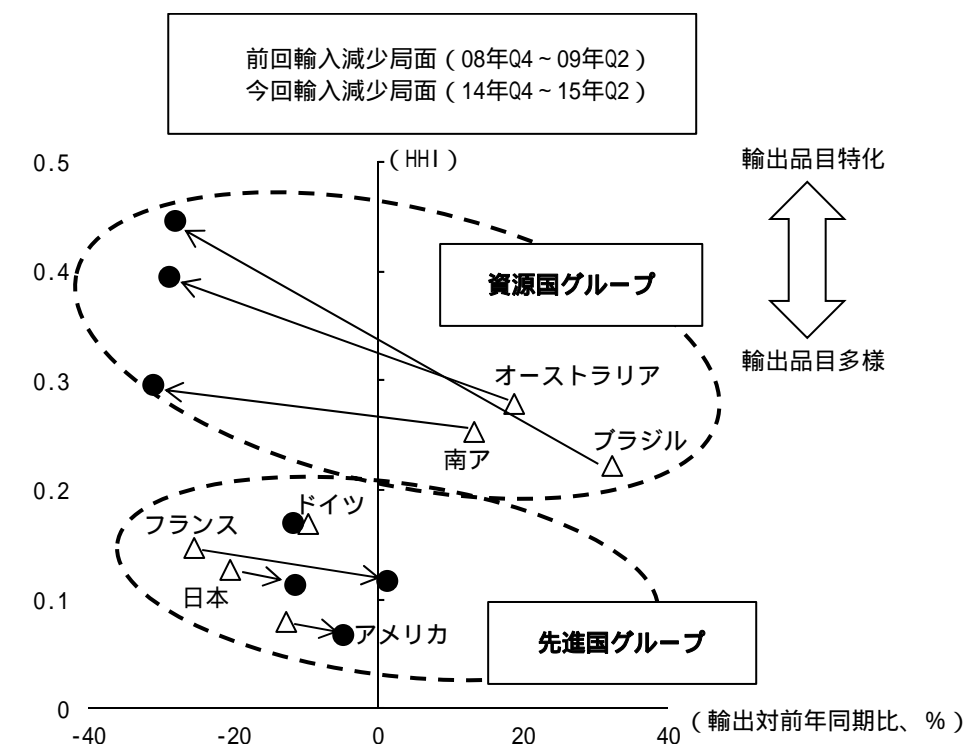
一方、先進国において今回の中国向け輸出額の落ち込みが比較的小さく留まっている背景には、中国の経済発展を受け、より差別化された競争力の高い製品の輸出が拡大した可能性が考えられる。例えば、ドイツの医療用品の中国向け輸出は 05 年以降ほぼ一貫して増加している。世界全体の医療用品の輸出額に占めるドイツのシェアは 14 年時点で 15.7% となっており、04 年以降 11 年連続で第 1 位を占めるなど国際競争力が高い。また、中国の医療用品の輸入は、前回の輸入減少局面では前年比 21.5%、今回の輸入減少局面でも同 6.6% 増加

<sup>10</sup> HS コード分類の上 4 桁の「類」による分類（全 97 類）を対象としている。

<sup>11</sup> 各国の中国向け輸出品目におけるシェアの 2 乗和で、 $0 < \text{HHI} \leq 1$  の間の数値となる。数値が大きいほど輸出品目を特化しており、数値が小さいほど輸出品目に多様化していることを示す。

している。一方、フランスの主力輸出品の一つである赤ワインもブランド力があり輸出競争力の高い商品と考えられる。中国政府の儉約令の影響により高級ワインの需要は鈍化しているが、全体として中国の赤ワイン消費量は年々増加しており、13年には消費量で世界一となった<sup>12</sup>。ブランド力のある輸出品は、新たな商品を提供することで幅広い顧客層に対してもアプローチができる強みがあり、他の製品に比べて競争力を維持しやすい。競争力の高い品目は、輸入相手国において代替が難しいことや、新しい顧客の開拓をしやすいこともあり、中国輸入減少局面における影響を緩和していると考えられる。

図 16 先進国と資源国の影響比較



- (備考) 1. ITCより作成。  
 2. 各矢印の始点は金融危機時、終点は今次中国減速局面を指す。  
 3. HHIは、ハーシュマン・ハーフィンダール指数の略。  
 算出方法は、各国の中国向け輸出品目におけるシェアの2乗和。  
 4. 金融危機時における中国向け輸出変化率は、  
 2008年第4四半期から2009年第2四半期までの間の対前年同期比。  
 5. 中国減速局面における中国向け輸出変化率は、  
 2014年第4四半期から2015年第2四半期までの間の対前年同期比。

<sup>12</sup> ワイン業界団体・VINEXPOの調査(14年)による。中国のワイン輸入額は08年から14年までの6年間で約2.5倍となっている(ドルベース)。

#### 4 . まとめ

本稿では、過去 10 年間の中国輸入減少局面について、数量と価格に分けて分析することにより、今回の中国輸入減少局面では前回と比較して輸入数量の減少よりも輸入単価の低下が大きく影響していることを明らかにした。また、中国輸入減少の各国への影響については、今回の輸入減少局面では、輸出品目の多様性が高い国（先進国グループ）の方が輸出品目を特化している国（資源国グループ）よりも中国輸入減少の影響が小さくなっていることが分かった。中国の世界経済における存在感が高まる中、中国輸入減少に左右されにくい経済構造にするためには、輸出品目の多様化を進めることや、他国には代替困難な製品の輸出に力を入れるなど、輸出競争力を高めることが重要と考えられる。

(参考文献)

財務省 輸入統計品目表 ( 実行関税率表 ( 2015 年 4 月版 ) )

( [http://www.customs.go.jp/tariff/2015\\_4/index.htm](http://www.customs.go.jp/tariff/2015_4/index.htm) )

内閣府 [2014] 『世界経済の潮流 2014 年 - 世界経済の成長の持続可能性 - 』

内閣府 [2015] 『世界経済の潮流 2015 年 - 原油価格下落と世界経済 - 』

VINEXPO “Vinexpo/the iwsr’s study”, January 2014.

( <http://www.vinexpo.com/en/news/news/iwsr-study-wine-spirits/> )

World Bank [2015] “World Bank Commodity Price Data(The Pink Sheet)”, October 2015.

( <http://www.worldbank.org/en/research/commodity-markets> )